

魔法の言葉でもう一步先の授業・クラスを！

算数 × 学級経営

著

魔法の言葉を操る
算数のスペシャリストたち

私が、「魔法の言葉」
をまとめた代表です。
算数 × 魔法の言葉
すてきでしょ！

次のページから、
ぼくの「魔法の言葉」が
紹介されています。
ぜひ、参考にして
ください！



高橋 丈夫



小宮山 洋



榎原 裕仁



工藤 尋大



青山 尚司

日々の声掛けに、
魔法の言葉をプラス

学級経営で、悩みの先生!!



荒れているわけではない
けれど、何だか物足りない！



クラスに自分の居場所
があると思ってほしい！



オンラインでも、児童が
主体になる授業にしたい！

こんなクラスに

- あったかい
- 人の意見を聞ける
- 自分の意見を話せる
- 認め合える

この扉を開けて
算数のスペシャリストの
魔法の言葉をゲット！

【魔法の言葉 その1】

エムバイビー

今日のMVPは？



青山 尚司
筑波大学附属小学校 教諭

授業の最後にまとめの 言葉を引き出す「魔法の言葉」

エムビイー 今日のMVPは？

授業の最後に、「わかったことは何？」「大切なことは何？」と聞いてしまうのは、子どもたちからまとめの言葉が自然形で出てこないからです。素直な子どもたちはきっとそれらの問いにも答えてくれます。でもそれは、子どもたちが本当に大切にできたと実感したことではなく、教師が何を求めているのかを一生懸命考えた答えではないでしょうか。

授業の終末の場面で、まとめの言葉がうまく出てこないと感じたら、「今日の授業のMVPは誰だと思う？」と問いかけてみましょう。すると子どもたちは、真剣に黒板やノートを見て授業全体を振り返り、重要な場面とそこで活躍した友だちを見つけて教えてくれます。そしてその子を選んだ理由を問うと、子どもたち自身が大切に感じた、まとめにつながるキーワードが自然と引き出されます。

MVPとは、「Most Valuable Player」の略で、日本語では「最優秀選手」という言い方になります。野球やサッカーなどのスポーツで、ある試合で最も活躍をした選手を指す

場合もあれば、シーズンや年間を通して著しい活躍をした選手に与えられる賞を指す場合もあります。まずはこのような意味や使われ方を子どもたちにも伝え、「みんなのために大切な活躍をした人」を選ぶ意識を高めましょう。

この言葉を使い始めた段階では、発言内容ではなく仲のよい友だちの名前を挙げる姿が目立つかもしれませんが、でも、普段あまり関わっていない友だちをMVPに選ぶ子が必ず現れます。そして、選んだ理由を語り合う活動を継続することで、授業における活躍とはどのようなものかが学級の文化として共有されていきます。子どもたちの選ぶ目が育っていくと、みんなが知らない難しい知識を披露する子よりも、図や言葉、式を効果的に使ってみんなが納得できるわかりやすい説明をした子が選ばれるようになっていきます。MVPを選ぶ活動の中にも数学的な見方や考え方が働くようになると、授業の最後まで生き生きとした交流が続きます。

4コマ漫画でイメージチェック！



いつでも・どこでも・だれでも使える！

「今日のMVPは？」は、便利で簡単な魔法の言葉です。算数の授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面で使うことができます。例えば、運動会や遠足などの行事や、お楽しみ会などの学級活動の振り返りをする場面で使うと、次の活動への意欲を効果的に高めることができます。また、帰りの会で日直が1日を通したMVPを発表することを継続的に行うと、友だちのよさを見つける文化が根付いていきます。低学年で「MVP」という言葉が難しい場合は、「今日のキラキラさん」など、親しみやすくわかりやすい言葉にしてあげてもよいでしょう。

友だちに「最優秀」という価値を与えてもらうことがうれしくないわけがありません。MVPを積極的に見つけて伝える活動は、みんなの笑顔を確実に増やしていきます。いくらやってもやりすぎることはないのです。むしろ、やればやるほどクラスの雰囲気はよくなっていきますし、いろいろな子が選ばれるようになっていきます。あらゆる場面でMVPを問い、仲間のよさをみんなで認め、励ます時間をつくっていきましょう。

いずれ、教師が問わなくても、授業中のよい発言や生活場面のよい行動を、「MVP級」と評価する子も現れるようになります。時には、教師が見逃してしまっている子どもたちのよさを子どもたちが教えてくれることもあります。目立たないところでクラスのために頑張っている友だちをMVPに選んだ子がいたら、「いい目をしているね！」と褒めて、認める人を認める連鎖をつくっていきましょう。

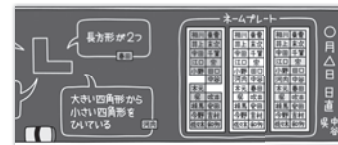
魔法の言葉の効果を高める道具！

授業で活躍した子の名前を黒板に残すための小道具として、マグネット付きのネームプレート複数枚作っておくことをおすすめします。

作り方は、まずパソコンでクラスの児童全員の名前が1枚に収まるように表を作ってプリントアウトします。それをラミネートしてはさみで切り、裏にマグネットを貼り付けたら完成です。色違いを何種類か作っておき、最初の発言は白、2度目の発言は水色、3度目は青……のように使い分けます。授業中に黒板を見ると、そこまで誰が発言してきたのかがはっきりわかります。また、残っているネームプレートの方に目を向けると、まだ発言していない子が誰なのかもすぐにわかるので、全員が活躍するよう意図的に指名してあげることもできます。授業の終わりに魔法の言葉その1を使ってその授業のMVPを選んでもらったら、黒板に貼られたネームプレートのそばに、赤のチョークで二重丸や花丸をつけてあげます。そのまま黒板の写真を撮っておくと、よい活躍をした子が誰だったのかを後で振り返ることができます。また、それらがその授業で引き出すべき発言であったかという観点で自身の授業を評価し、その後の教材研究として役立てることもつながります。

いろいろな子がMVPに選ばれるようになってきたら、選ばれた子のネームプレートに、小さな金のシールを貼っていくという方法もあります。積み重ねが目に見えるので励みになりますし、そのネームプレートを学年末にプレゼントしてあげると、とても喜びます。

授業以外にも、グループ分けや役割分担など便利な活用法がたくさんあるネームプレート、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。



算数スペシャリストの 「魔法の言葉」が 待望の書籍化！



算数 × 学級経営

魔法の言葉で
もう一歩先の授業・クラスを！

使える言葉を20本収録！
ハッシュタグでお悩みに対応！
6月15日発売！

B5判/112ページ

定価：1,650円（本体1,500+税10%）

著者・高橋 丈夫（成城学園初等学校副校長）・工藤 尋大（成城学園初等学校教諭）
・青山 尚司（筑波大学附属小学校教諭）・小宮山 洋（成城学園初等学校教諭）
・榎原 裕仁（武蔵野市立第五小学校教諭）